

## 高野山大学図書館展示物

閲覧室では貴重書や学生が制作した作品を随時展示しています。  
現在展示している2点の絵図と1点の貴重書をご紹介します。

### 高野山独案内

2016年 1月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2016年 2月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

	9:00-20:00		9:00-17:00
	13:00-20:00		13:00-17:00
	休館日		9:00-19:00



#### 【書誌データ】

江戸時代刊  
紙本墨色 木版  
縦 28 cm 横 42 cm

この書誌はいわば現代のガイドブックにあたります。特徴は高野山周辺の参詣道や九度山・橋本を含めて描かれている点で、名所には■、宿がある所には▲の印があります。

### 高野山細見絵図



#### 【書誌データ】

江戸時代 文化10年  
(1813) 刊  
紙本墨色 木版  
縦 70 cm 横 150 cm

この書誌は『高野山独案内』と異なり、描かれているのは高野山内のみです。建物だけでなく、山内を行き交う人々も描かれているのが特徴です。

### 『十住心論』



#### 【書誌データ】

鎌倉時代中期  
建長六年(1254)～  
正嘉三年(1259) 刊本  
粘葉装 十帖

空海の代表的著述のひとつで、この貴重書は鎌倉時代に高野山で刊行された高野板(高野山およびその門流寺院で出版された木版印刷物の総称)です。

## 発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町

高野山 385

高野山大学図書館

閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

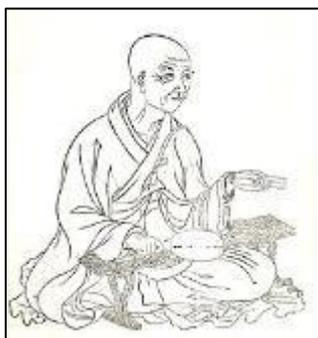
E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

twitter : @koyasanlib

# — 明恵上人のはなし —

高野山大学教授 図書館長 下西 忠



明恵上人（『集古十種』）

明恵上人（高弁）は、いわずとしれた平安末期から鎌倉初期にかけて活躍した高僧である。後鳥羽上皇より下賜されて、華嚴宗興隆の地として梅尾高山寺を得て、そこに止住した。明恵は名利を遠ざけ、新仏教の動きに反して南都の華嚴宗を尊重し独自の道を歩んだ。

兼好『徒然草』にこのような話がある。

梅尾の上人、道を過ぎ給ひけるに、河にて馬洗ふ男、「あしあし」と言ひければ、上人立ち止まりて、「あな尊や。宿執開 発のかいほつ人かな。阿字々と唱ふるぞや。如何なる人の御馬ぞ。余りに尊く覚ゆるは」と尋ね給ひければ、「府生殿の御馬に候ふ」と答へけり。「こはめでたき事かな。阿字本不生にこそあなれ。うれしき結縁をもしつるかな」とて、感涙を拭はれけるとぞ。(144段)

道すがら、明恵は河で馬を洗っている男をみた。その男は「あしあし」と言っている。明恵は感動して立ち止まり「尊いことだ。前世で功德を積んだ果報すばらしい男だ。阿字阿字と唱えているよ、さてどなたの馬なのか」と尋ねた。すると男は「府生殿のお馬です」と答えたところ、「これまた結構なことだ。阿字本不生なんだ。嬉しい仏縁を結んだものだ」と明恵が感涙を流したという話しである。明恵は「脚」と「阿字」、「府生」を「不生」を聞き違えた。仏に説法ではないが、阿字は梵字の表で 12 母韻の最初におかれるもので、この音が本となって一切の梵字ができるものとして仏教ではとくに重んじた。ちなみにこの阿字が本不生であることを深く考えることによって、一切の諸法もまた不生であることを観想するのを阿字観という。

一途に仏道に精進していた明恵は、たまたま河で馬を洗っていた男が「脚」と言ったことを「阿字」、「府生」と言ったことを「不生」と聞き違い、それらをあわせて「阿字本不生」と理解した。そして有り難い仏縁をむすんだものと素直に喜んだ敬虔な態度を兼好がほめたたえた、という話しである。愚かしいことだ、と人は思うかもしれない。しかし、愚かなことにまで信心深い行為をしたが多かった明恵を考えると、ここは素直に「ありがたい（めったにないすばらしい、の意）」明恵像を描いたと理解すべきであろう。明恵は犬、牛、馬に対しても腰をかがめて通ったという人物であつた。弟子の喜海の『梅尾明恵上人伝記』にある。

偉人とは異人のことかもしれないと、ふと私の脳裡をよぎった。



（写真は高山寺 下西撮影）